

第3回

布育のすすめ ～簡単布おもちゃ作り「とんがりボール」～



講師 さとう ゆきこ 氏

1 布育について

布育とは、私が作った言葉で、布おもちゃを通して、子どもの心と体の成長発達に寄り添う活動です。その中で、布おもちゃを二つのカテゴリーに分けて考えています。

一つ目は、手指・身体を育む布おもちゃです。遊びの中で動作が伴い、様々な体の機能を育みます。布ボール、ボタンはめ、紐結び等の機能があるもので、楽しく一生懸命遊んでいるうちに手指の巧緻性等が自然と身につきます。

二つ目は、心を育む布おもちゃです。布おもちゃらしい大事な側面が、情緒の安定です。布の形状やぬいぐるみを触っているだけでも、癒される感覚はお分かりではないでしょうか。そのことが、情緒の安定に繋がります。子どもにとっての情緒の安定は、機嫌が良いという状態のことだと思います。子どもは機嫌が良いとポテンシャルの中の最高が出せるように思います。機嫌が悪いと、好きなものも食べなかったり、活動を拒否したりします。機嫌が悪くなるのは、悪いことではありませんが、気持ちを整えていくのに、布おもちゃの癒しの力は役立つのではないかと考えています。また、ごっこ遊びでも、表現力やコミュニケーション能力が豊かになり、子どもの心を育みます。

子どもは、ちゃんと遊ばちゃんと育ちます。体の機能、言葉の力、知識、音楽、リズム、創作、コミュニケーション、知的好奇心、ルール等を、遊びの中で学んでいきます。つまり、子どもの遊びは生活であり、人生です。大人には、存分に遊

べる環境を守っていくという役目があります。そして、おもちゃはそれを助ける道具なのです。子どもの興味や発達に合った適切なおもちゃがあると、遊びは深くなり、遊び仲間が増え、豊かに広がっていきます。このように、おもちゃと遊びと健やかな成長は密接に関わっています。

2 とんがりボール 材料

- ・プリント生地（14cm×26cm）1枚
- ・プラ鈴 1個
- ・手芸用綿
- ・刺繍糸

このとんがりボールは、シンプルな型紙でできるものを考え、昔の小学校で見られた三角の牛乳パックを応用しました。

今回は、ピンクのフルーツ柄の生地を使います。糸は、布に合わせますので今回はピンクです。

最初に糸の準備をします。刺繍糸は細い糸6本で束になっているので、中から1本を上引き抜きます。横に引き抜くと絡まりますので気を付けましょう。縫い針に糸を通し、二本取りになるよう端と端を重ねて、玉結びをしてください。

3 とんがりボール 作り方

- ① 長方形の生地、長辺の中心に印をつける。
- ② 表の柄が内側になるように、中表に二つ折りにする。

縫い代1cmでL字型に縫っていきますので、

チャコペン等で線を引きましょう。次に、待ち針を縫う線に対して直角に打ちます。待ち針を打つと、布がずれないので失敗が減ります。安全ピンの要領で、必ず刺したら針の頭を少し出すようにしましょう。そうすることで手にひっかかることが減ります。L字の縫い線のそばを5，6か所とめましょう。

③ 縫い代1cmでL字型になみ縫いをする。

縫い目については子どもの指が入らない位に細かくした方が良いでしょう。縫い目から中綿が見えたと、すぐに子どもは好奇心で引き抜こうとしてしまいます。

縫い代の角の始末をします。縫った糸を切らないように注意して、布の角の余分な部分を斜めに切っていきます。布を裏返したときに、角がゴワゴワしないのですっきりします。巾着袋の角等にも応用できます。

④ ③の縫い線と①の中心印を合わせて、待ち針を打つ。

L字を縫い終えたら、袋のようになります。袋の口を開けて、縫い線の始点と、①でつけた中心の印を合わせ布の端と合わせていくと、昔の牛乳パックのような四面体になります。縫い代を広げてならし、縫い線と中心印に布端から1cm位のところに待ち針を打っていきます。

⑤ 返し口を5cm位残し、左右端から中央へ向かって縫う。

縫い代の角の処理をします。裏返す前に、縫った線の延長上の返し口部分に、指で折り線をつけていくと、後ほど縫いやすくなります。

⑥ ⑤を裏返す。

縫い代の処理をしたら、裏返します。角は全部で4か所になります。ピンセットや細いペンなどを使って外に押し出してあげると綺麗な形になります。綿を入れる前に角をしっかりとがらせます。

⑦ ⑥に手芸綿とプラ鈴を入れていく。

返し口から綿を入れるのですが、入口が狭いからといって、綿を小さなお団子のように丸めて入れると、中でぼこぼこになってしまいます。ちぎってほぐして、ふわふわのまま入れていきます。中でとんがりボールの形にしていくイメージです。綿をある程度入れたら指やペン等で、底辺の両角に綿をしっかりとめていきましょう。

半分ほど綿を入れたところで、プラスチック鈴を入れます。プラ鈴は、二重構造になっていて空洞が確保されているため、綿の中に入れても、鈴本来のきれいな音が出ます。普通の鈴を入れると、周りが綿に触れているので、空気がこもったカラカラという音になってしまうのです。また、プラ鈴はプラスチックなので、さびません。布おもちゃで、鈴の音がするものを作る際にはお勧めです。

おむすびの具のように、真ん中に入れましょう。端だと割れやすくなり、触り心地も良くありません。そのあと、また綿を詰めていきます。

⑧ 返し口を縫い閉じる。

綿を詰め終えて、形を四面体に整えたら、返し口を縫っていきます。どの縫い方でもよいですが、はしごまつりがお勧めです。縫い閉じて、とんがりボールの完成です。

4 とんがりボールの遊び方

子どもの発達の流れに沿ってお伝えします。

(1) にぎにぎ～感覚・感触の遊び～

0ヶ月からお座り位までの遊び方です。

0ヶ月はまず音を聴きます。音がする方に頭を向けて、見ようとするのも遊びの第一歩です。しばらくすると、近くで振ってあげると、何だろうと手を伸ばして触ったり、上から吊るすと手で揺らしたりする姿が見られます。また、手に渡すと握ることができるようになり、握ると口へ入れるようになります。赤ちゃんの布おもちゃを作るとき、持ちやすい、しゃぶりやすいものを意識しています。とんがりボールの角も、口にしやすいです。0歳の子にとって、口に入れることは何よりの遊びです。

最初は大人が振ることで音を聴いていたけれど、自分で振って音を鳴らすことができるようになります。さらに、落とすことができるようになります。赤ちゃんは、手掌把握反射があるので握ることはできますが、落とすことはすぐにはできません。初めは偶然手を開いて落ちるのだと思いますが、何か月かすると、自分で手を開き、落とすことができるようになります。自分のコントロールで落とせるようになったということは、子どもにとって喜びです。食事中に食べ物やスプーン等を落とす姿は、こうした喜びや面白さによるものです。そういった時期に、布おもちゃは落としても危険ではなく、繰り返し落とすことを楽しめるおもちゃです。

(2) ボール遊び～身体の遊び

ハイハイできるようになってきた頃の遊び方です。まず、転がったボールを追いかけて、一目散にハイハイをしていきます。興味を

もったものの方へ、自分の意思で体を向かわせることができることは喜びです。このボールは、予想しない方向へ転がるので、追いかけて行ってみようという意欲に繋がります。

次に、転がったものを追うところから、自分で運ぶことに繋がります。とんがりボールは柔らかく、つまみやすいので、つかまり立ち、ハイハイの時期でも片手で持つことができるちょうどよいサイズ感です。

次に、投げるができるようになります。手のひらを開くタイミングと、腕を上から振り下ろす動作の連動で投げます。この頃は、うまくいったりいかなかったりすることを、繰り返し楽しみ、できたときに「やったー！」という気持ちになります。

また、自分で投げたボールを追いかけることも遊びになります。部屋で遊ぶときにも、とんがりボールは転がりすぎず、視界からなくなることはありません。少し転がったら止まり、繰り返し追いかけることができ、遊びが持続します。小さい子でも歩けるようになると、蹴って遊ぶ姿も見えてきます。

(3) ボール遊び～身体の遊び+心の成長

1歳児でも、相手がボールを必ず返してくれるということを経験していれば、投げる、受け取るというキャッチボールらしい遊びになってきます。信頼している大人と一緒にやり取りができるようになり、その楽しさがわかった子は、子ども同士で投げ合うことができるようになるのです。キャッチボールは、ボールの扱いというスキルもありますが、心の成長がないとできないのです。一緒に遊んでくれるという心の信頼関係の表れでもあります。

また、狙って投げる、蹴ることも楽しくなります。バスケットゴールや、節分で鬼に向かって投げる等、的に向かって投げたり蹴ったりする環境を作ると、やってみようとする姿が見られます。

技術が伴ってくると、ルールがあると、より遊びが楽しくなります。ドッジボール、サッカー、ボウリング等、ゴールに入ったら1点とか、何本倒せる等、ルールを守って、勝負を楽しめるようになります。負けると悔しい気持ちや、勝ちたいと思う気持ちも出てきます。

こうして成長の流れで見ると、1つのボールで遊べる人数が増えていくことがわかります。赤ちゃんの頃は、1人で遊んでいますが、2人でキャッチボールをしたり、複数人でボールゲームをしたりと、徐々に人数が増えていきます。遊びながら周囲との関わりが増えていき、成長につながっていきます。

5 マイブームは成長の証

子どもは、自分にとって少し難しいこと、できるようになったことを繰り返しやります。4(1)で記述したように、スプーンを落とすことがブームになっている子もいます。そのブームは動きを獲得したからこそその成長の証です。しかし、安全面やマナーの面から、落としてほしくない場合は、どう考えたらいいのでしょうか。

まず、この時期は、スプーンを落とすことや投げることがうれしくて、投げたくて、仕方がないことを理解します。そして、気持ちを受け止めて、遊びの中で安全にたくさん投げる環境を用意するとよいです。子どもは、たくさん投げて満足したり、簡単にできるようになったりすると、自然にやらなくなるものです。

保育室のおもちゃも、簡単にできるようになったり、興味が過ぎたりすると、遊ばなくなります。ボールもただ投げるという行為が面白くなくなると、つまらなくなるので、ゴールを用意して狙えるようにしてみる等、やってみたいと思える環境を用意していくことが大切です。

このように、子どもがなぜこうした行動をしているのかの背景を考えながら、子どもの姿を通して遊びに繋げると、子どもの発達に寄り添った遊びができると思います。子どもは遊びの先生なのです。

6 さいごに

今回は1つ作りましたが、園に同じものが複数あると楽しめます。直線縫いなので、ミシンを使うと大量生産できます。今回は、直径10センチ位のものができます。小さいサイズで作ると、ままごとの具材にもなります。誤飲しないよう、サイズには留意しましょう。

数を多く用意したり、色別に作ったりすると、並べる、積むことも楽しめます。ゴム紐をつけてヨーヨーにしたり、ジャンプしてタッチしたりすることもできます。マジックテープを付けると、ごっこ遊びにも使えます。いろいろとアレンジを楽しんでみてください。

とんがりボール



第3回 焼津市保育者資質向上研修会（抜粋）
令和6年10月8日（火）
焼津市役所大会議室1B・オンライン（各園）